

令和元年度  
日田市中小企業訪問調査  
報告書

令和元年9月

日田市 商工観光部 商工労政課



## 目 次

I 調査の概要 .....	1
II 調査結果の概要 .....	2
1 景気動向に関する調査.....	2
(1) 過去1年間の経営状況 .....	2
(2) 今後の経営状況の見通し .....	5
2 企業の強みに関する調査.....	8
3 経営課題に関する調査.....	10
4 消費税増税の影響 .....	12
5 設備投資の動向.....	13
6 雇用の動向.....	15
(1) 雇用人員状況.....	15
(2) 今後の採用予定 .....	16
(3) 雇用の見直し予定 .....	16
(4) 賃金の見直し.....	17
(5) ワークライフバランスの取り組み.....	17
(6) 子育て世代の女性の雇用 .....	18
(7) インターンシップや職場体験.....	18
(8) シニア世代の雇用 .....	19
7 その他 .....	20
(1) 主な相談先 .....	20
(2) その他、企業からの自由意見 .....	20

## I 調査の概要

### 1 目的

本調査は、平成 28 年 4 月に施行した「日田市中小企業振興基本条例」第 18 条（意見の聴取）の規定に基づき、市内の中小企業の現状や課題、その解決に必要なニーズを把握するため、企業を訪問してヒアリングを実施したもの。

ここで集約した調査結果は、中小企業や支援団体等の外部委員で組織する「日田市中小企業振興推進会議」に報告され、中小企業振興施策の進捗管理や効果の検証、改善策の検討を行う際の資料とする。

### 2 調査件数 52 社

平成 28 年経済センサス活動調査（確報）における、日田市内の事業所数 4,088（公務等を除く）から日本標準産業分類の割合を参考に訪問件数を設定。

No.	産業分類	H28経済センサス 事業所数(確報)	割合	訪問数
1	農林漁業	77	1.88%	0社
2	鉱業、採石業、砂利採取業	1	0.02%	0社
3	建設業	414	10.13%	7社
4	製造業(食料・飲料)	100	2.45%	5社
5	製造業(木材家具)	214	5.23%	9社
6	製造業(金属ほか)	111	2.72%	4社
7	電気・ガス・熱供給・水道業	6	0.15%	1社
8	運輸・通信業	98	2.40%	1社
9	卸売業、小売業	1,055	25.81%	9社
10	金融業、保険業	66	1.61%	1社
11	不動産業、物品賃貸業	302	7.39%	1社
12	サービス業	1,276	31.21%	12社
13	教育、学習支援業	107	2.62%	0社
14	医療、福祉	261	6.38%	2社
合計		4,088	100.00%	52社

なお、次ページからの「II 調査結果の概要」では、業種を次の 4 つに分類して分析する。

業種	産業分類	件数
建設業	No.3 の建設業	7
製造業	No.4～6 の製造業	18
卸・小売業	No.9 の卸売業・小売業	9
サービス業ほか	No.12 のサービス業とそれ以外の業種	18

### 3 実施時期 令和元年 5 月～8 月

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 景気動向に関する調査

#### (1) 過去1年間の経営状況

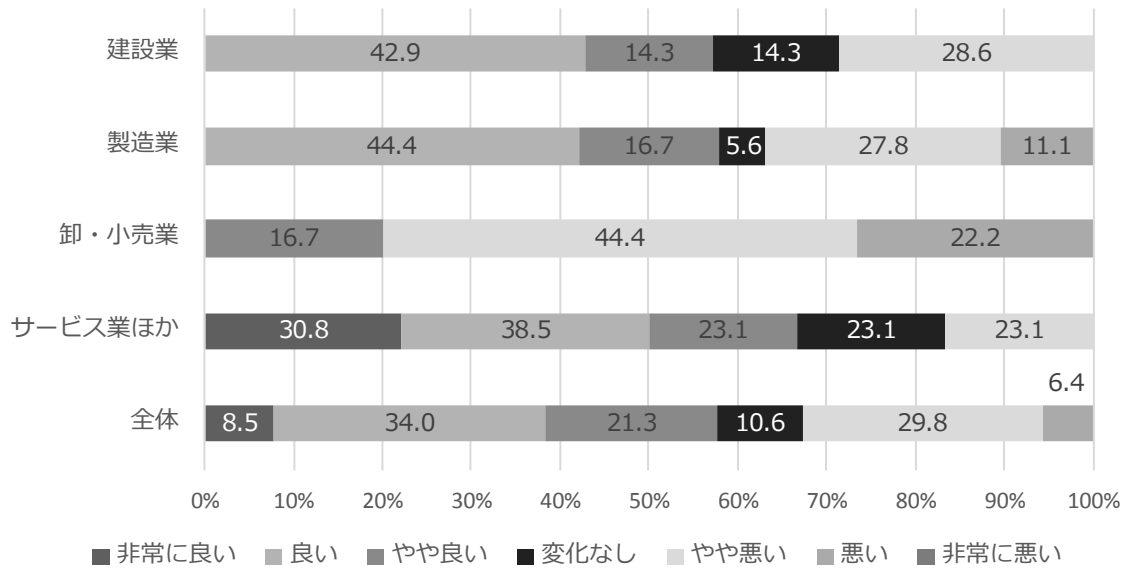
- ・景況感は、僅かながら改善している。
- ・全体としては、「非常に良い」から「やや良い」までが63.8%を占めており、前回調査（平成30年）と比較して6.9ポイント増加した。一方で、「非常に悪い」から「やや悪い」までは36.2%と、前回調査より6.7ポイント増加している。
- ・業種別にみると、「非常に良い」から「やや良い」までのポイントが増加したのは、サービス業ほか（35.9ポイント増（今回調査では92.4%）、製造業が8.4ポイント増（今回調査では61.1%）と、昨年に引き続き数値が改善した。
- ・しかしながら、「非常に悪い」から「やや悪い」までのポイントは、4つの業種すべてで悪化しており、卸・小売業を中心に前回調査より厳しい数値となった。

（単位：%、ポイント）

	非常に 良い	良い	やや良い	変化なし	やや悪い	悪い	非常に 悪い
建設業		42.9	14.3	14.3	28.6		
		33.3	33.3	16.7	16.7		
		(+9.6)	(△19.0)	(△2.4)	(+11.9)		
製造業		44.4	16.7	5.6	27.8	11.1	
	5.3	31.6	15.8	10.5	31.6		5.3
	(△5.3)	(+12.8)	(+0.9)	(△4.9)	(△3.8)	(+11.1)	(△5.3)
卸・小売業			16.7		44.4	22.2	
	12.5	25.0			37.5	12.5	12.5
	(△12.5)	(△25.0)	(+16.7)		(+6.9)	(+9.7)	(△12.5)
サービス業ほか	30.8	38.5	23.1	23.1	23.1		
	16.7	16.7	33.3	22.2	5.6		5.6
	(+14.1)	(+21.8)	(△10.2)	(+0.9)	(+17.5)		(△5.6)
全体	8.5	34.0	21.3	10.6	29.8	6.4	
	9.8	25.5	21.6	13.7	21.6	2.0	5.9
	(△1.3)	(+8.5)	(△0.3)	(△3.1)	(+8.2)	(+4.4)	(△5.9)

※上段は今回調査結果、中段は前回調査結果、（ ）内の数字は前回調査からの増減

### 過去1年間の経営状況



「非常に良い」から、「非常に悪い」までの、7段階の判断に、それぞれ下表のカッコ内の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（％）に乗じて算出した景気DIは、下記のとおりである。

非常に悪い	悪い	やや悪い	変化なし	やや良い	良い	非常に良い
0	1/6	2/6	3/6	4/6	5/6	6/6
(0)	(16.7)	(33.3)	DI=(50)	(66.7)	(83.3)	(100)
←			判断の分かれ目	→		

### 業種別の景気DI

- ・景気DIは僅かながら改善している。
- ・全体では60.9となっており、前回調査と比較して1.1ポイント増加している。
- ・業種別にみると、サービス業ほか70.4と最も高く、前年調査より4.7ポイント増加している一方、卸・小売業は40.7と前年調査より7.2ポイント減少している。

業種	景気DI	回答数	前回調査	前回との差
建設業	61.9	7	63.9	△ 2.0
製造業	61.1	18	57.9	3.2
卸・小売業	40.7	9	47.9	△ 7.2
サービス業ほか	70.4	18	65.7	4.7
全体	60.9	52	59.8	1.1

## 【企業の声】

### (建設業)

- 利益率は悪いが工事の数は多い。
- 大手企業と取引をするようになった。
- 太陽光、自然エネルギーの仕事が多い。
- 大手のハウスメーカーの建売ばかりで、注文住宅がほぼない状態。

### (製造業)

- 特注のOEMが順調。
- 売上げが上昇。店舗数も増加。
- 利益率がよいのは、取引先の幅広さが大きな要因。リスク分散につながっている。
- 売上、利益率ともによい。取引先の製造メーカーが好調なため。
- ここ数年は横ばい状態。悪くならないように設備投資や新商品開発に取り組んでいる。
- 物流費がさらに高騰している。値段を上げきれないでいる。タイミングは難しい。
- 売上が昨年の15%から20%減(海外、特に中国)

### (卸・小売業)

- 仕入れ価格は上昇気味。(近年の運送料上昇の影響かは価格だけではわからない)
- 数字は悪くないが景気が良いわけではない。
- 商品券は、大型店と分けたのはよかったが、使えるところを早く公表すべきだった。

### (サービス業ほか)

- 月100名~150名の予約が入っている。今のところ、順調。
- 客の入りが良い。連日予約でいっぱい。リピーターも多く、大変好評。
- 固定電力買取りによる安定。
- 法的な規制が多くなったため仕事増。
- 分譲地が売れている。新築などもそれなりに発注がある。
- 客の入りが非常に良い。正直手が足りないくらい。
- 競争相手が多く、価格競争になる。
- 韓国人観光客はやはり少なくなった。そもそも、バスが来ない。
- 客足が思ったより回復していない。特に日本人観光客。
- 送料が3,4割上昇。宅配を控えるお客もいる。
- 商品券は、売り切れなかったのは残念だが、営業ツールとしてはよかった。効果あり。
- サンリブの閉店、駅前工事などが続き、客の寄り付きが良くなかった。
- JRの開通等、大きな工事も終わって落ち着いているが、日田駅の駐車場の少なさが気になる。20台→10台となった。
- 7月~8月の台風の影響で1割ぐらい客が減少している。

## (2) 今後の経営状況の見通し

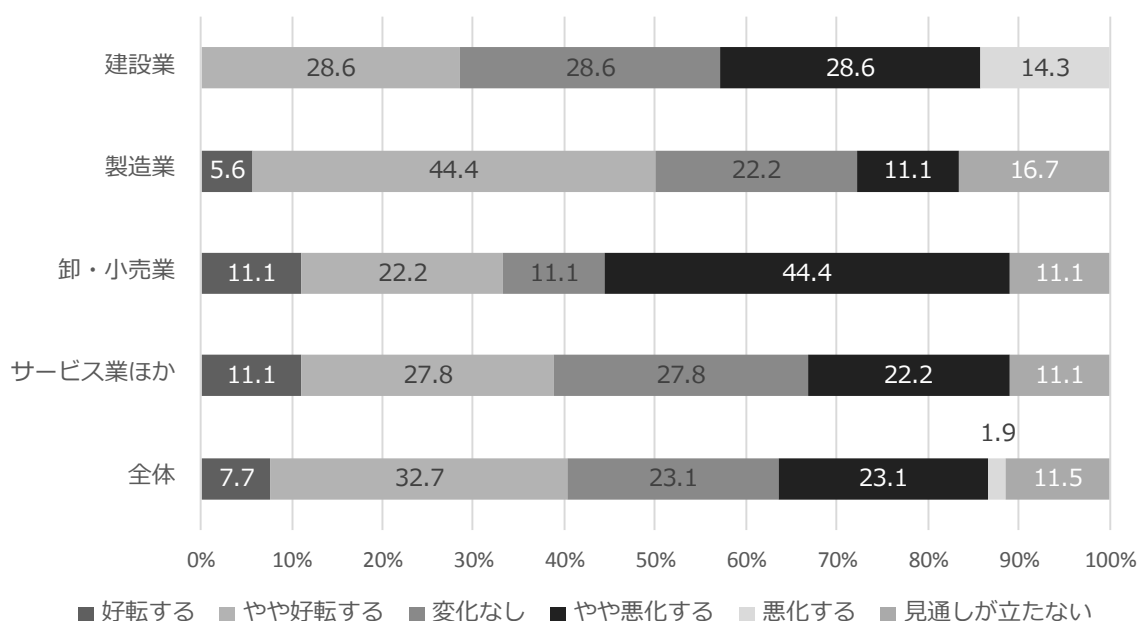
- ・今後の景況感は、やや悪化する傾向が見られる。
- ・「好転する」、「やや好転する」は40.4%と、前回調査と比較して20.3ポイント減少しており、「悪化する」、「やや悪化する」は25.0%と前回調査より13.2ポイント増加している。
- ・また、「見通しが立たない」も11.5%と前回調査より5.6ポイント増加しており、先行きの不透明感が強まっている。

(単位：%、ポイント)

業種	好転する	やや好転する	変化なし	やや悪化する	悪化する	見通しが立たない
建設業		28.6	28.6	28.6	14.3	
	33.3		33.3	33.3		
	(△33.3)	(+28.6)	(△4.7)	(△4.7)	(+14.3)	
製造業	5.6	44.4	22.2	11.1		16.7
	15.8	57.9	15.8			10.5
	(△10.2)	(△13.5)	(+6.4)	(+11.1)		(+6.2)
卸・小売業	11.1	22.2	11.1	44.4		11.1
	12.5	50.0	12.5	12.5	12.5	
	(△1.4)	(△27.8)	(△1.4)	(+31.9)	(△12.5)	(+11.1)
サービス業ほか	11.1	27.8	27.8	22.2		11.1
	16.7	38.9	27.8	11.1		5.6
	(△5.6)	(△11.1)	(±0.0)	(+11.1)		(+5.5)
全体	7.7	32.7	23.1	23.1	1.9	11.5
	17.6	43.1	21.6	9.8	2.0	5.9
	(△9.9)	(△10.4)	(+1.5)	(+13.3)	(△0.1)	(+5.6)

※上段は今回調査結果、中段は前回調査結果、( )内の数字は前回調査からの増減

### 今後の経営状況の見通し





「好転する」から「悪化する」までの5段階の判断（「見通しが立たない」と回答したものはデータより除く）にそれぞれ下表のカッコ内の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて算出した景気予想DIは、次のとおりである。

悪化する	やや悪化する	変化なし	やや好転する	好転する
0 (0)	1/4 (25)	2/4 DI=(50) 判断の分かれ目	3/4 (75)	4/4 (100)

### 業種別の景気予想DI

- ・景気予想DIは、やや悪化する傾向が予想される。
- ・全体では56.0となっており、現在の景気DIと比較すると4.9ポイント低くなっている。
- ・業種別にみると、「サービス業ほか」が64.7、「製造業」が63.3と前向きな見込みであるのに対し、「建設業」は42.9と景気の悪化が予想されている。
- ・今後の景況感の差「(景気予想DI) - (景気DI)」でも、「建設業」は、△19.0と大きなマイナスの数値を示している。

業種	景気予想DI	回答数	景気予想DI - 景気DI
建設業	42.9	7	△ 19.0
製造業	63.3	15	2.2
卸・小売業	50.0	8	9.3
サービス業ほか	64.7	17	△ 5.7
全体	56.0	46	△ 4.9

### 【企業の声】

#### (建設業)

- 国の施策である国土強靱化計画により、今後仕事が増えるのでは。
- 受注が多く、仕事を選べる状態。
- 大手ハウスメーカーの建売ばかりで、注文住宅がほぼない状態。
- 人材不足により、新たな受注機会を逃しているため大きく伸びることはない。
- 人手不足により現場代理人が置けず、仕事が受けられない。

#### (製造業)

- ものづくり補助金を活用した設備投資が軌道に乗り、安定生産できるようになった。
- 各種デザインを統一させることができれば好転する。
- 株価がまだよいし、外資系企業が戻ってきている（テーブルの大きさでわかる）
- 大手メーカーは、今後も段ボール事業は伸びると予測。
- 新規商品開発が順調。

## 【企業の声】

### (製造業)

- 近年同業者が辞めていることから、その分の仕事が依頼されている。
- 現状より下がる要素はない見込み。
- 大手企業が製材工場を稼働している中、勝ち残れるかどうか。
- 好転する要素が見当たらない。
- 熊本地震以降、通りの人が少ない印象。
- 工夫次第によるが、業界としては明るい兆しは見えない。
- 米中貿易戦争に続き、韓国との関係悪化。

### (卸・小売業)

- Twitter や facebook 等、SNS を活用したプロモーションの工夫を行う。
- 店の現状を変えることができなければ、好転しない。(外的要因)
- 観光客が来れば、後は腕次第。現実的には韓国へのバスが減っているので見通し立たない。
- 競合店舗の出店が見込まれ、競争が激化する。
- よくなる気はしない。大半、大型店に行っている。地域内商店飲食店を使えばよい。
- 人口減少により、長期的には回復しそうにない。

### (サービス業ほか)

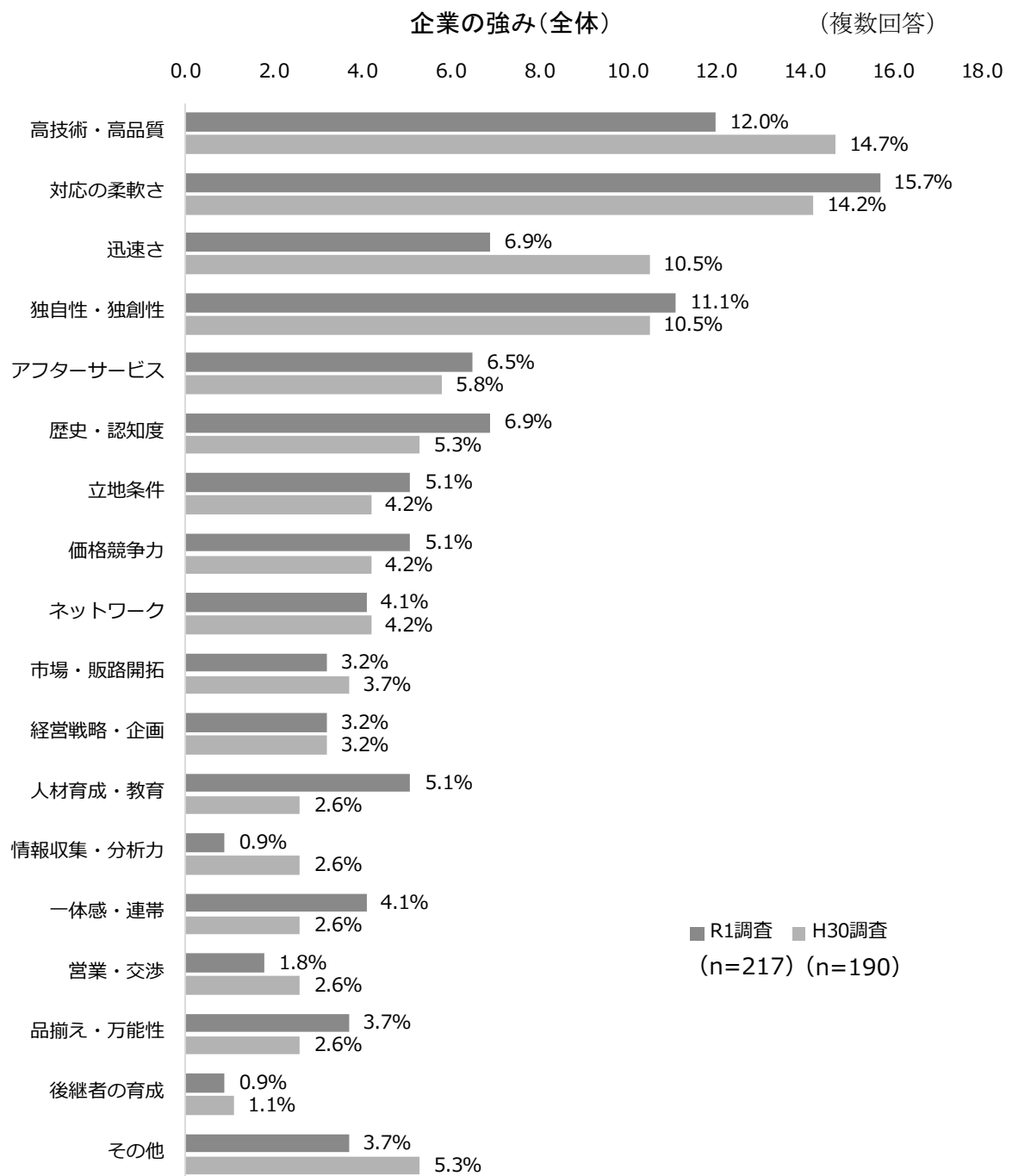
- お客様はいるので、効率や回転率を改善したい。
- とにかく、口コミに気を付けている。噂が広まるのが早いようなので。
- 6～7年は変化なし。その後は見通しが立たない。
- 銀行のアプリ開発などは、待ってもらっている。
- 管理物件などの安定した収入はないため、波がある。
- もうしばらくは分譲地が売れ続ける見込み。長い目で見れば、人口減少により発注が減るのは避けられない。
- 今のところずっと予約でいっぱい。例えるなら「ずっと土曜日」。
- 人口減により、どうしても契約数が減る。
- 免許返納等で自動車保険の減も想定される。
- 4年目に入り、新しいサロンという認識ではなくなる。
- 3年後の改定次第で状況は変わるが、現在が良いので、やや悪化すると判断。国の加算がなくなれば収入減少となるため。
- 増税の影響が心配。
- お客に中高生が含まれており、あまり値上げしたくない。

## 2 企業の強みに関する調査

・217件の回答のうち、「対応の柔軟さ」が34件(15.7%)、「高技術・高品質」が26件(12.0%)、「独自性・独創性」が24件(11.1%)、「迅速さ」及び「歴史・認知度」が15件(6.9%)で上位になっている。

・また、前回調査と比較すると、「人材育成・教育」が2.5ポイント増加したのに対し、「高技術・高品質」は2.7ポイント、「迅速さ」は3.6ポイント減少している。

・業種別にみると、建設業は「高技術・高品質」が強みであると回答した割合が最も高く、それ以外の業種は「対応の柔軟さ」が上位になっている。



企業の強み(業種別) 上位回答と比率

業種	1位	2位	3位	4位	5位
建設業	高技術・高品質 16.7%	独自性・独創性 13.3%	対応の柔軟さ 迅速さ アフターサービス 10.0%		
製造業	対応の柔軟さ 17.1%	高技術・高品質 独自性・独創性 14.3%		迅速さ 8.6%	歴史・認知度 7.1%
卸・小売業	対応の柔軟さ 20.6%	立地条件 歴史・認知度 アフターサービス 11.8%			価格競争力 8.8%
サービス業ほか	対応の柔軟さ 14.5%	高技術・高品質 10.8%	独自性・独創性 ネットワーク 9.6%		人材育成・教育 8.4%
全体	対応の柔軟さ 15.7	高技術・高品質 12	独自性・独創性 11.1	迅速さ 歴史・認知度 6.9	

【企業の声】

(建設業) これまでの実績

(製造業) 栗そばまんじゅうなど、商品自体の魅力

(卸・小売業)

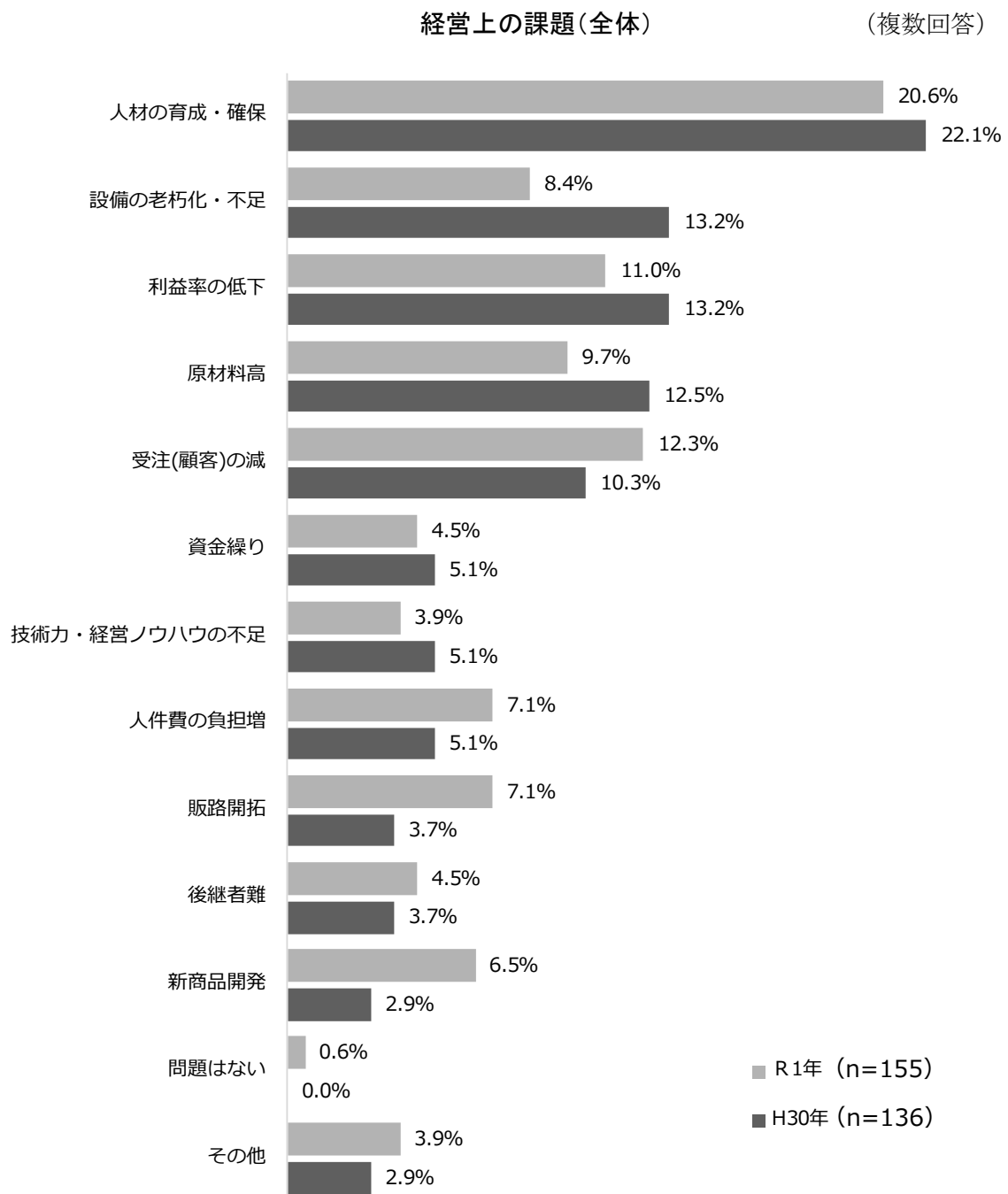
- 以前は、立地条件としてアミナードもよかったが…
- 楽天で1位となり、その後も口コミで売れている
- そもそも売れ筋の商品は、お客様からの提案を商品化したもの
- 同業他社が少ない
- 価格競争力はセルフサービス部分
- 従業員の半分は営業に配置している

(サービス業ほか)

- 出張販売などでお店に興味を持ってもらえている
- 商品開発力があり、お客さんとよく話すようにしている
- 顧客のニーズに応えたデザイン

### 3 経営課題に関する調査

- ・155 件の回答のうち、「人材の育成・確保」が 32 件（20.6%）と最も割合が高く、前回調査と同様に課題の 1 位となった。次いで「受注（顧客）の減」が 19 件（12.3%）、「利益率の低下」が 17 件（11.0%）、「原材料高」が 15 件（9.7%）と続いた。
- ・前回調査と比較して、「人件費の負担増」が 2.0 ポイント、「販路開拓」が 3.4 ポイント増加している一方で、「設備の老朽化・不足」が 4.8 ポイント減少している。
- ・業種別にみると、卸・小売業のみ「受注（顧客）の減」の割合が高くなっているが、すべての業種において「人材の育成・確保」は上位を占めている。



経営上の課題(業種別) 上位回答と比率

業種	1位	2位	3位	4位	5位
建設業	人材の育成・確保 40.0%	利益率の低下 20.0%	受注(顧客)の減 13.3%	原材料高、新商品開発 施設の老朽化・不足等 6.7%	
製造業	人材の育成・確保 16.9%	原材料高 11.9%	利益率の低下 10.2%	受注(顧客)の減 設備の老朽化・不足 8.5%	
卸・小売業	受注(顧客)の減 25.0%	利益率の低下 人材の育成・確保 14.3%		人件費の負担増 10.7%	資金繰り 原材料高 新商品開発 7.1%
サービス業ほか	人材の育成・確保 22.6%	設備の老朽化・不足 13.2%	販路開拓 11.3%	受注(顧客)の減 原材料高 9.4%	
全体	人材の育成・確保 20.6%	受注(顧客)の減 12.3%	利益率の低下 11.0%	原材料高 9.7%	設備の老朽化・不足 8.4%

【企業の声】

(建設業) 資材の値が上がっている。

(製造業)

- 以前は、展示会に出していたが効果に疑問?であり今は出していない。
- 物流は、料金体系が変わっている。運賃の高騰、外注費の高騰。
- ラベル表示は、既製品に対する対応はそれほど難しくもないものの、詰め合わせ等その都度内容が変わったりするものは対応が難しい。
- 新しい人材を入れるためにはある程度の給与を保障する必要があり、そのためには現社員の給与も上げなければならない。
- 業績が好調なうちに工場を増設したいと考えているが、土地がなく悩んでいる。
- 後継者問題。
- 機械代が高い。もの作りプロジェクトとして、新商品の開発をしている。

(卸・小売業)

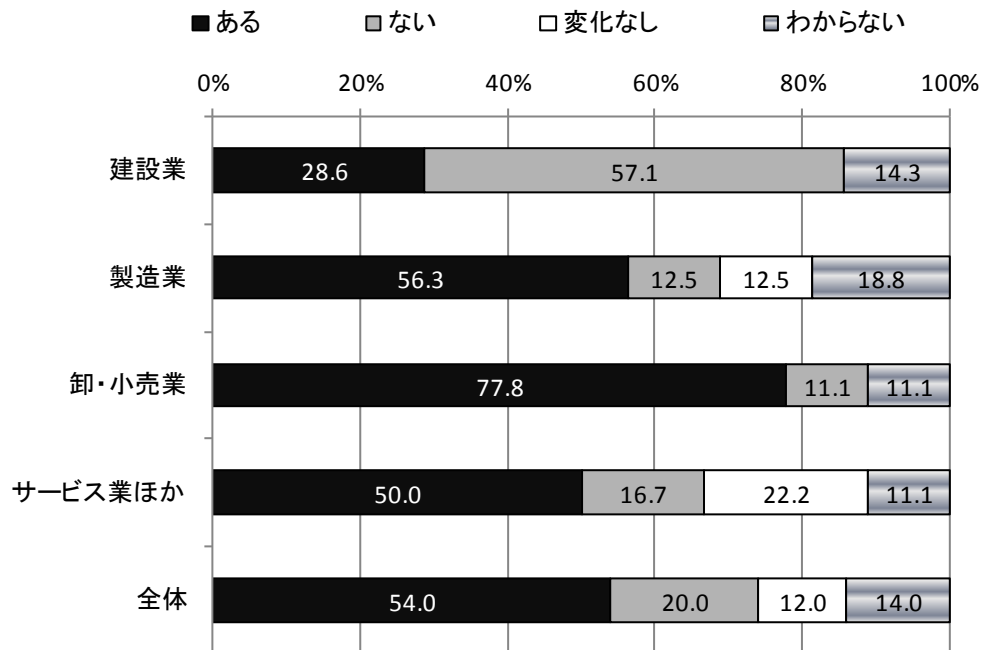
- プロモーションの強化が一番の課題。
- 原油価格は落ち着いた。電気自動車やハイブリット車の増加等、環境志向の高まりにより縮小する市場だと感じている。
- どうやってこの商売を終わらせるか考えている。
- パッケージや広告、営業力が課題。

(サービス業ほか)

- 資金繰り。投資したいことはたくさんあるが、元手が足りない。
- 人手は欲しいものの、求める人材は中々見つからない。
- 人材育成・人材不足が最大の悩み。全体をマネジメントできるような人材がほしい。

#### 4 消費税増税の影響

- ・本年10月に行われる予定の消費税増税（8%～10%への引上げ）の影響について、「ある」と回答した割合は全体で54.0%であった。
- ・業種別にみると、卸・小売業は77.8%が、影響があると回答している一方で、建設業は、影響ありが28.6%という回答であった。



#### 【企業の声】

(建設業) 増税分を消費者でなく、自社が負担するような状態になりそう。

(製造業)

○本来影響はないが、買い控えの影響は可能性がある。

○原材料の価格上昇が見込まれる。

○10%に上がるのは仕入れも売りも同じなので変化なしといたいところだが、受注への影響はわからない。

(卸・小売業)

○キャッシュレスはなくても何とかするのが現状なので、行政窓口等で使う機会があれば多くの人が触れるのでは。

○キャッシュレスは全ての形が使えるようにしなければプラスαの売り上げにならない。

(サービス業ほか)

○予想として、以前ほど大きな混乱はないと思う。国民が消費税を払い慣れている。

○内税方式なので価格を上げる予定。キャッシュレスは検討中。必要になれば対応する。

○レジは軽減税率対策補助金で買い替えた。持ち帰りとイトインの区別が必要のため。

○キャッシュレスは検討したが、駅と足並みを揃えているため、駅に交通系IC等が入ればあわせて導入するつもり。

## 5 設備投資の動向

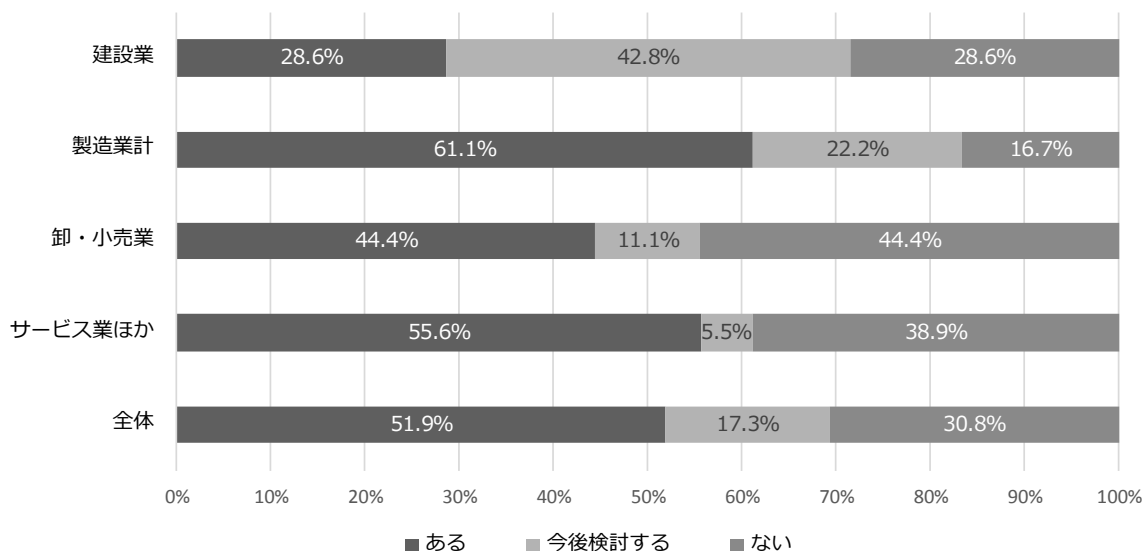
- ・設備投資について「検討する」を含め、「設備投資計画あり」と回答した割合は69.2%で前回と比較し6.4ポイント増加している。
- ・業種別にみると、製造業、卸・小売業、サービス業ほかの「計画あり」は、前回よりそれぞれ増加している一方で、建設業は「計画あり」が大きく38.1ポイントも減少している。
- ・設備投資の内容は、「機械設備」が58.8%で最も高く、前回調査より15.9ポイントの増加となった。

(単位：%、ポイント)

業種	設備投資計画あり			設備投資計画なし
	計画あり	検討する	小計	
建設業	28.6	42.8	71.4	28.6
	66.7	16.7	83.4	16.7
	(△38.1)	(+26.1)	(△12.0)	(+11.9)
製造業	61.1	22.2	83.3	16.7
	52.6	26.3	78.9	21.1
	(+8.5)	(△4.1)	(+4.4)	(△4.4)
卸・小売業	44.4	11.1	55.5	44.4
	37.5	12.5	50.0	50.0
	(+6.9)	(△1.4)	(+5.5)	(△5.6)
サービス業ほか	55.6	5.5	61.1	38.9
	38.9	5.6	44.5	55.6
	(+16.7)	(△0.1)	(+16.6)	(△16.7)
全体	51.9	17.3	69.2	30.8
	47.1	15.7	62.8	37.3
	(+4.8)	(+1.6)	(+6.4)	(△6.5)

※上段は今回調査結果、中段は前回調査結果、( )内の数字は前回調査からの増減

### 設備投資計画の有無





## 設備投資計画の具体的な内容

業種	不動産 (土地・建物)	機械設備	車両	その他
建設業	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
製造業	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
卸・小売業	20.0%	60.0%	0.0%	20.0%
サービス業ほか	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
全体	38.2%	58.8%	0.0%	2.9%

### 【企業の声】

#### (建設業)

- 福岡支店の増設等。
- 車両の老朽化による買い替え、資材置き場の建て替え等。

#### (製造業)

- 躯体にかかる建築資材の建屋を新設したい。
- 工場見学の入入れを見据えた事務所。ショールームの新設。
- 天瀬でチップパー機を導入予定。財務システムも入れたい。
- 生産ラインの機械化。
- 機械は、補助金を活用したいと考えている。
- 騒音や臭いの無い安全な設備の導入。
- 包装用機械にモノづくり補助金を活用したい。
- 工場で使用している機械が1台4~5千万円かかるため、タイミングが合えばものづくり補助等を活用していきたい。

#### (卸・小売業)

- 陳列棚の増設。今は商品が溢れている。
- 認証工場の設置を考えているが、用地の確保（駐車場等）のため調整中。
- 計量器や貯蔵タンクの更新などはいずれ出てくる。
- 機械を購入したが、補助金の理由が雇用を増やすためとは…時代に逆行している。

#### (サービス業ほか)

- 店自体を増やす。食品表示変更によるラベルの改修。
- 写真測量の技術が進んでおり、乗り遅れないためにも段階的な投資を計画している。
- パソコンや車の定期的な更新。
- シャンプーに使う浄水器を購入予定。
- 食洗器を導入したい。料理を出したいのに皿がないということがある。
- 施設が24年経過しているため、備品設備の更新時期となっている。

## 6 雇用の動向

### (1) 雇用人員状況

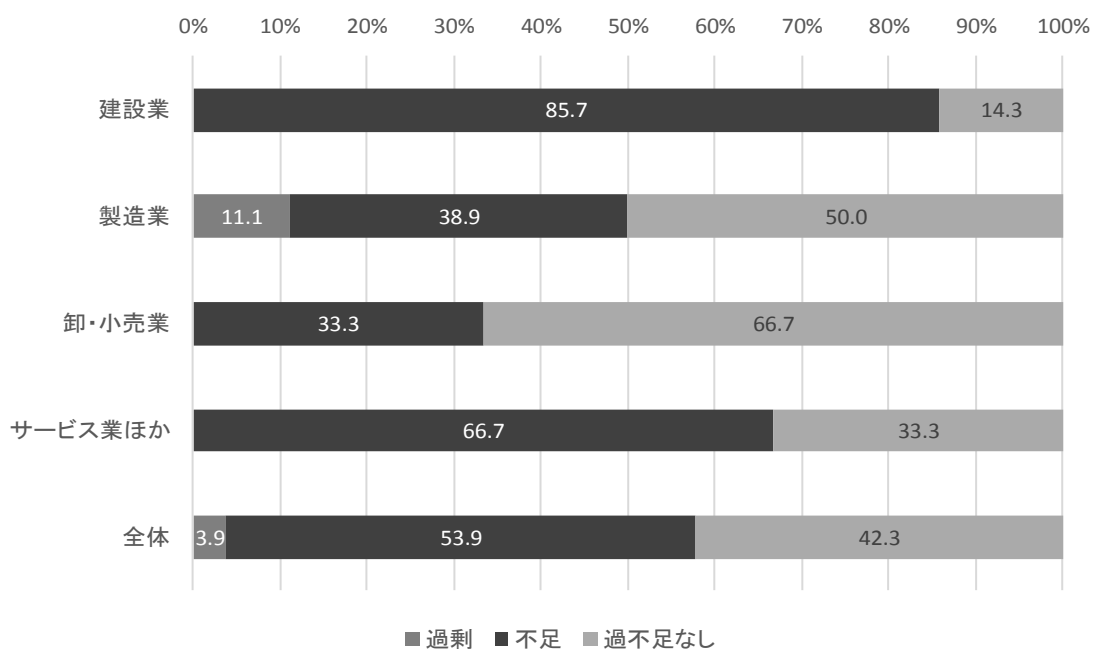
・雇用人員の状況については、「不足」が53.9%と前回調査より10.8%増加しており、人手不足感がより増している状況である。

(単位：%、ポイント)

業種	過剰	不足	過不足なし
建設業	0 (0)	85.7 (+35.7)	14.3 (△35.7)
製造業	11.1 (+5.8)	38.9 (+2.1)	50.0 (△7.9)
卸・小売業	0.0 (△37.5)	33.3 (+33.3)	66.7 (+4.2)
サービス業ほか	0.0 (0)	66.7 (0)	33.3 (0)
全体	3.9 (△4)	53.9 (+10.8)	42.3 (△6.7)

※ ( ) 内の数字は前回調査からの増減

#### 雇用人員の状況



#### 【企業の声】

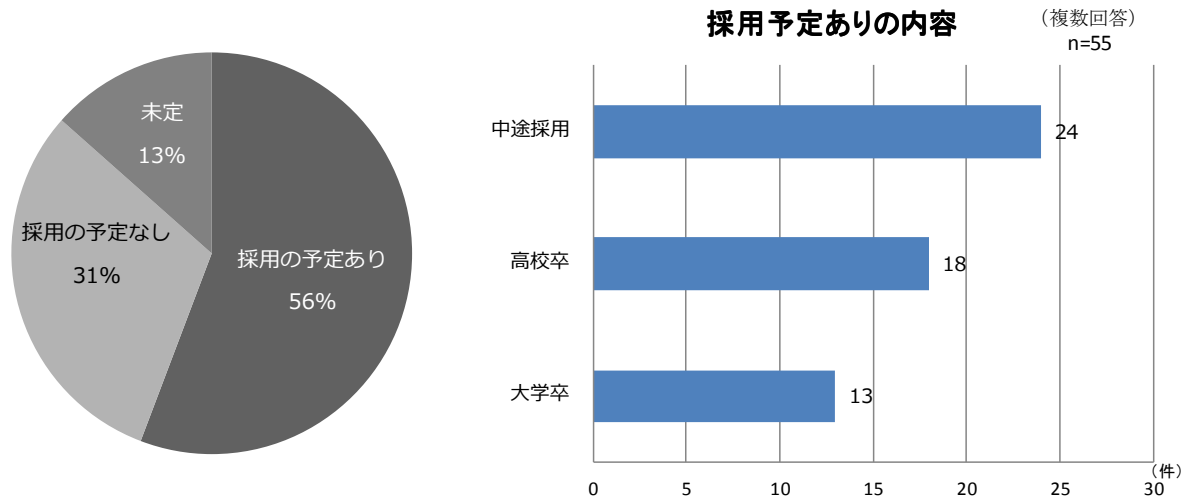
○高校や大学を訪問し、自社PRや学校の先生に視察に来てもらうなどの取り組みを行っているが、応募は簡単には増えない。(製造業)

○求人を出しても大卒、高卒ともに申し込みがない。合同企業説明会の参加者から2名採用できたので、感謝している。(製造業)

○求職者は、以前市内の職場をまわっていたが、最近の若者は他市へ出ている。(サービス業ほか)

## (2) 今後の採用予定

・今後の採用予定については、56%が「採用予定あり」と答えており、その内容は55件の回答のうち、「中途採用」が24件、「高校卒」が18件、「大学卒」が13件となっている。

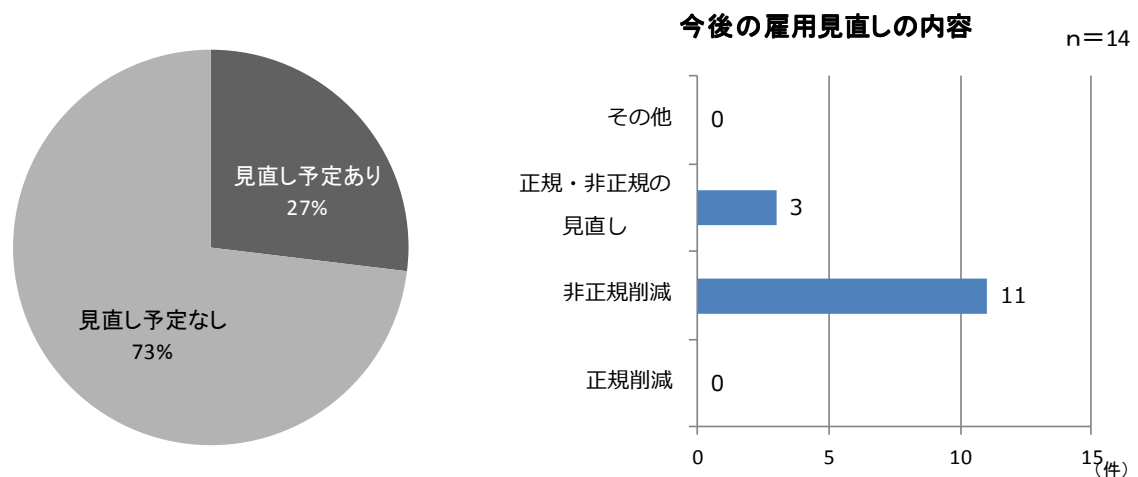


### 【企業の声】

- 社員の定年退職が近く、いずれ不足する見込み。即戦力希望。(卸・小売業)
- 繁忙期に雇いたい、人材が見つからない。(サービス業ほか)

## (3) 雇用の見直し予定

・雇用の見直しについては、73%が「見直し(人員削減や雇用形態の変更など)予定なし」と答えている。



### 【企業の声】

- 時短希望の従業員は非正規に、パートでやる気のある従業員は正規に、考えている。(製造業)
- 積極的に正社員にしたいとは思っているが、パートを希望する人もいる。(サービス業ほか)

#### (4) 賃金の見直し

- ・賃金の見直しについては、毎年の昇給やボーナスで対応する等を含めて「賃金アップの予定」が 51.9%と最も高かったが、昨年と比較して 16.7%減少している。

(単位：%、ポイント)

業種	賃金アップ の予定あり	賃金カット の予定あり	予定なし
建設業	42.9 (△57.1)	0 (0)	57.1 (+57.1)
製造業	61.1 (+3.2)	0.0 (0)	38.9 (△3.2)
卸・小売業	55.6 (△19.4)	0.0 (0)	44.4 (+19.4)
サービス業ほか	44.4 (△22.3)	0.0 (0)	55.6 (+22.3)
全体	51.9 (△16.7)	0.0 (0)	48.1 (+16.7)

※ ( ) 内の数字は前回調査からの増減

#### 【企業の声】

- 時給 900 円～1,000 円を目指す。昇給ガイドラインを作ろうと思っている。(サービス業ほか)
- 年齢給、職能給は毎年アップしている。(卸・小売業)

#### (5) ワークライフバランスの取り組み

- ・ワークライフバランスについて、「取り組んでいる」が 78.9%と、前回調査より 23.6 ポイント増加している。

(単位：%、ポイント)

- ・業種別では、聞き取りした建設業の全ての企業で取り組んでいた。
- ・取り組みの内容は、ノー残業デーや有休取得の推進が見られた。

業種	取り組んでいる	取り組みは困難
建設業	100.0 (+33.3)	0.0 (△33.3)
製造業	77.8 (0)	22.2 (0)
卸・小売業	66.7 (+4.2)	33.3 (△4.2)
サービス業ほか	77.8 (+19.0)	22.2 (△19.0)
全体	78.9 (+23.6)	21.1 (△23.6)

※ ( ) 内の数字は前回調査からの増減

#### 【企業の声】

- 部門ごとに、業務改善や効率化の取組みを発表する勉強会を年 1 回行っている。(製造業)
- 夜間に資格取得のための講座を実施している。子連れ出勤や Wワークを取り入れている。(サービス業ほか)

## (6) 子育て世代の女性の雇用

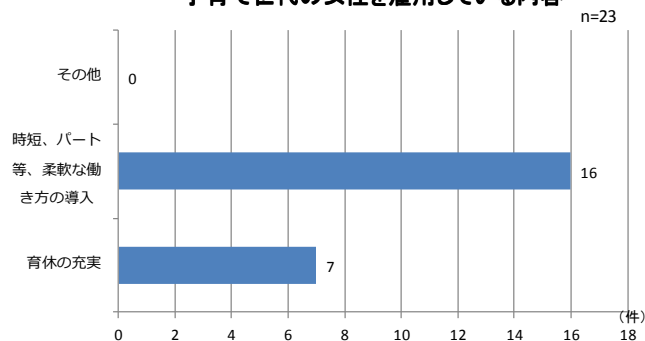
・子育て世代の女性を、「雇用している」が50.0%と、前回調査より8.8ポイント減少している。業種別にみると、製造業が子育て世代の女性を多く雇用している。

(単位：%、ポイント)

業種	雇用している	雇用していない
建設業	28.6 (△38.1)	71.4 (+38.1)
製造業	66.7 (△12.3)	33.3 (+12.3)
卸・小売業	44.4 (△18.1)	55.6 (+18.1)
サービス業ほか	44.4 (+11.1)	55.6 (△11.1)
全体	50.0 (△8.8)	50.0 (+8.8)

※ ( ) 内の数字は前回調査からの増減

子育て世代の女性を雇用している内容



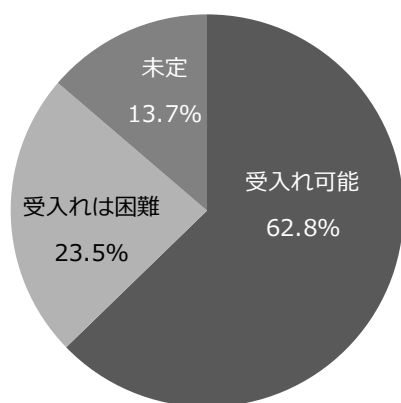
### 【企業の声】(2つとも製造業)

- 急な子どもの熱等、臨機応変に対応している
- 女性の雇用を増やしていきたいと思っている。

## (7) インターンシップや職場体験

・インターンシップや職場体験について、62.8%が「受入れ可能」と回答。前回調査より4.0ポイントの減少。業種別にみると、建設業の86%が「受入れ可能」であるのに対して、卸・小売業は55.6%が「受入れ困難」と答えている。

(単位：%、ポイント)



業種	受入れ可能	受入れ困難	未定
建設業	86 (+2.7)	0 (△17.0)	14 (+14.3)
製造業	72.2 (+3.8)	16.7 (△9.6)	11.1 (+5.8)
卸・小売業	33.3 (△29.2)	55.6 (+30.6)	11.1 (△1.4)
サービス業ほか	58.8 (△2.3)	23.5 (△15.4)	17.7 (+17.7)
全体	62.8 (△4.0)	23.5 (△5.9)	13.7 (+9.8)

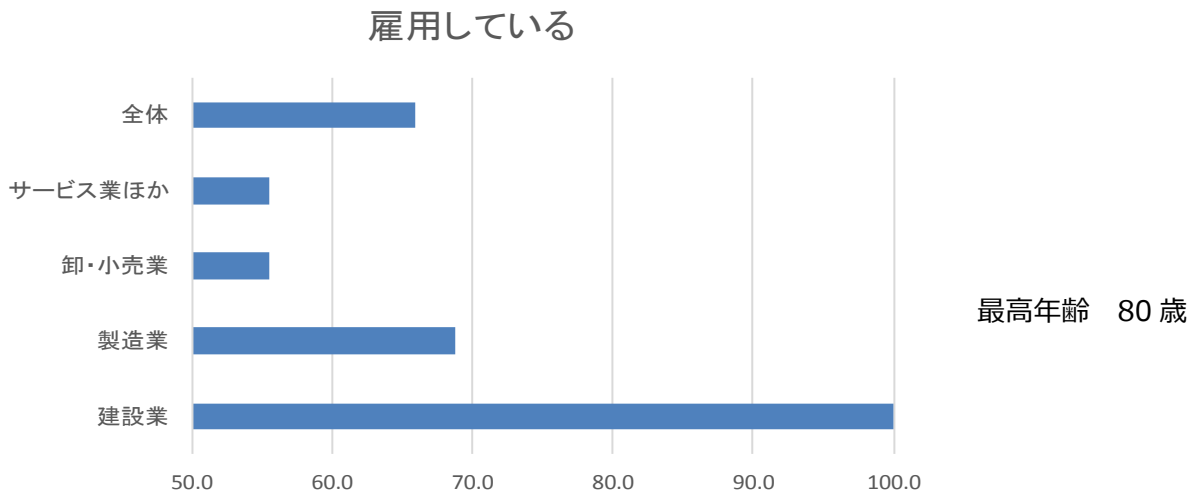
※ ( ) 内の数字は前回調査からの増減

### 【企業の声】(2つとも製造業)

- 支援学校や高校の受け入れを行っている。今年は工業連のバスツアーも受け入れ予定。
- 障がい者の受け入れを行っているが、やはりできることできないことがあるので、その人の適性にあった業務に携わってもらっている。

## (8) シニア世代の雇用

- ・シニア世代の雇用について、全体では 66.0%が雇用していると回答。
- ・業種別にみると、建設業の 100%がシニア世代を雇用しているのに対し、卸・小売業とサービス業ほかは、55.6%にとどまっている。
- ・今回の調査における雇用者の最高年齢は、80 歳であった。



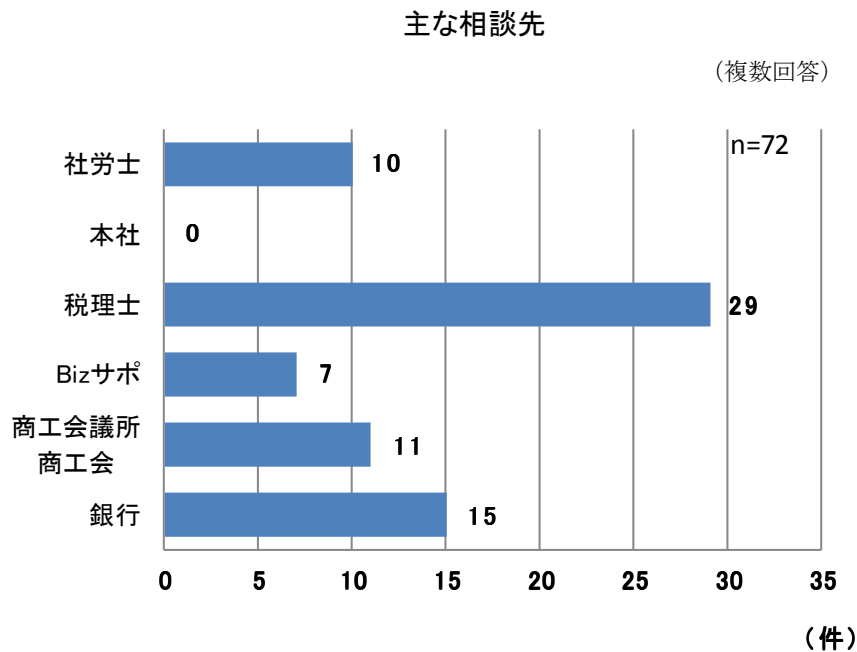
### 【雇用していない理由】

- 仕事とあわないかも。ただ、裏方の仕込み作業などでは心強い。(サービス業ほか)
- 特に応募がない。(製造業)
- どちらかというとな若返りを図りたい。(製造業)
- 今後、60 歳以上の方を 2 名採用する予定がある。(製造業)

## 7 その他

### (1) 主な相談先

経営上の課題を相談する先について、回答のあった72件中、最も多かったのは「税理士」で29件、次いで「金融機関」が15件「商工会議所、商工会」が11件、「社会保険労務士」が10件、「ビジネスサポートセンター」が7件と続いた。



### (2) その他、企業からの自由意見

#### ア 外国人関連（雇用・観光客）に関すること

- ・ベトナム人を9月に1名採用予定。
- ・外国人実習生を、2名カンボジアから受け入れている。
- ・台湾1名、韓国1名、中国人のインターンシップ生が1名いる。
- ・近々ベトナム人を雇用する予定があるが、将来的には雇用しない方針。
- ・外国人については、やはり日本語がネックになると考えている。記録も日本語で残さなくてはならない。
- ・現在、中国人を3名雇用中。人づてに紹介してもらった。社宅にて3名で住んでいる。課題はこれといってなし。
- ・考えたことはあるが、資格を持っていないため現場で働いてもらえない。雇用は難しい。
- ・受け入れの準備を始めている。(外国人雇用に関するセミナーを受講した)
- ・今後も採用難が続けば、外国人雇用の可能性も漠然と考えている。仮に外国人を採用する場合は、接客業であるためコミュニケーション能力や責任感を重視する。
- ・台湾1名、韓国1名いるが一緒に楽しんでいるようだ。今後は、増やさざるを得ない。
- ・今後ベトナムの方3人を雇用予定。10日間限定。必須なのは、w i f i 環境。また、市として同じ環境にある外国人の方のサポートのための交流会。受け入れ方の方法についての企業向けセミナーも必要。

- ・行政と介護福祉事業所が協力し、外国人労働者の共同居住施設を設けてほしい。
- ・外国人が交流できるスペースの充実。
- ・災害の時に国内の観光客は減ったが、外国人のツアーは変わらず来た。支払いは、ほぼ現金。カードや電子マネーについて聞かれることは減多にない。
- ・お客として大切にする必要があると感じており、多言語の案内ボードを作ったり、音声認識の翻訳機を導入したりしている。

## イ 企業経営に関すること

- ・ビズサポには、月2回ほど相談に行っている。
- ・創業時には会議所やビズサポにお世話になった。
- ・売り上げの伸び悩みがあり、資金繰りが厳しい。
- ・SNSによる発信を積極的に行い集客したい。

## ウ シニア雇用に関すること

- ・外国人を雇うのならシニア層を活用したいと考えているので、当面外国人雇用はない。
- ・シニア層には学ぶべきことがたくさんある。加えて過去に福祉施設で働いた経験者であれば、スキルを学べる。

## エ 補助金に関すること

- ・継続して頑張っている企業に対する支援が欲しい。
- ・機械整備に関する補助が欲しい。生産性の向上、効率UPのため。
- ・500万円前後の木工機械を新しくしたい。
- ・就業者サポート支援を充実してほしい。
- ・OJT研修の補助があるとよい。県から補助を受けたこともある。
- ・若者が気軽に出店する環境を作れたら良い。レンタル屋台や物件の短期賃借等。

## オ インバウンド

- ・キャッシュレス決済に関する問い合わせは少し増えた。
- ・多言語対応は英語対応くらい。店頭販売なので指さしで通じることが多い。
- ・最近の世界情勢を受けて、なんとなく韓国人は減っている感じがある。

## カ まちづくりに関すること

- ・日田市の木工に関する取り組みを知ってもらうことを行っている（日田家具衆）
- ・職人でもご飯が食べられることをアピールし、日田市に集めたい。はりや加工の技術力持っている人いる。
- ・日田は、イスやソファの産地である。
- ・豆田の交通規制について、商店街の総会で取り組むこと（自治会でも）、観光協会でも取り組むことを確認したが、具体的な動きは不明。



- ・ 駅前に空店舗が目立つ。見た感じが寂しい。
- ・ 福岡で買い物することが多いので、人材が流出しやすいとは感じている。
- ・ 人を日田に招いた時に、昼食を案内できる落ち着いたところが少ない。おしゃれなランチができれば良いと思う。
- ・ 都会と同じ土俵で戦っても勝ち目がないので、田舎は田舎なりの戦い方をしていくのが必要なのだと思う。
- ・ 技術系の高等教育機関があるといい。
- ・ 漆器の歴史が途絶えてしまうことが心配。
- ・ 人口減社会となり、高齢者は今から不便になる。公共交通施策を考え、コンパクトシティを目指す必要がある。
- ・ 若い人は物をもたなくなっている。
- ・ 商店街という言葉は、あえて使わないほうがよい。
- ・ ここ2年ぐらい感じているが、飲食サービスが伸びている。
- ・ 若い人が食べていけるようにしないといけない。
- ・ 大きな工場はありがたいが、シリコンバレーみたいにIT企業（日田オフィス）を誘致すべき。
- ・ 日田の醤油は質が高い。調味料の良さをPRするのもよい。
- ・ まとまった土地があれば店舗の出店の相談もあるようだ。ゆめマートの出店もあったし、日田も商業的な価値がまだあると思われる。
- ・ 日田は祭りが多いが、祭りと祭りの間はガラガラ。祭りできてくれたお客様のもてなし方を考える必要がある。
- ・ 地域に長くいると魅力にかえって気づきにくい。ハレさんのような外部の人に魅力を発見してもらいたい。
- ・ 他市では、空店舗に出店する際に営業時間に条件を付けるところもあるようだ。シャッターが開いている時間を長くした方がよい。
- ・ 駅前には、駐車場が少ない。ダイヤモンドの空きビルなどは立体駐車場で良いのだが…
- ・ アミナード通りは本当に寂しい。飲食街・屋台街にすると面白いが…
- ・ 祇園文化のおかげで、平日でも客が入り助かる。林業・建築系の社長も多い。
- ・ 学生が増えるとアルバイトの確保もしやすくなる。新しい学校施設でもできないか。

#### キ 市への要望に関すること

- ・ 駅前広場はもう少し人が居やすい工夫をしてほしい。何も無い雰囲気がある。子どもが来なければ親も来ない。
- ・ 駐車場の確保が悩ましい。ちょっと買って帰る、ということができない。
- ・ インターンシップは学校ごとではなく、まとめて来てほしい。現場を見るだけなら20～30人でも受け入れられる。(体験なら1回に5人以下)
- ・ 市長公約の障がい者や、シニア世代が社会参加できる創業支援策に興味がある。協議会等の設置があれば参加したい。人手不足には日田市全体で対応していかないといけない。

- ・地域おこし協力隊の方たちなど頑張っている人たちを日田市がバックアップして、うまくアピールしていくとよいのでは？
- ・U I ターン情報が外部の方に伝わって採用につながるような取組に力を入れてもらいたい。
- ・災害からの立ち直りが弱い。豆田は元気だということを発信してもらいたい。
- ・産業振興センターを駅前を持ってきてほしい。駅前にお土産屋がないとの意見を聞く。

## その他

- ・工場が分散しているので、まとまった土地があれば移転統合したいという思いもある。日田には企業誘致の土地が少ないと聞いているが、今後よい条件の土地があれば紹介してほしい。
- ・市内経済活性化のため、誘致企業には地場企業を利用してもらいたい。
- ・市の見積もりは安くせざるを得ない現状がある。利幅が薄くても受注したいと考えるから。工事のように基準があって最低制限価格があるといいのではないか。
- ・人口を増やしてくれるとありがたい。特に若い子育て世代に移住して欲しい。
- ・前は売り尽くしセールなどをやっていた。問屋がなくなり、卸の仕事がなくなった。

# 「業況D I は悪化傾向、来期は改善傾向の見通し」

～「日田商工会議所」市内企業景気動向調査結果～

- 調査対象期間：平成31年4月～令和元年6月期
- 調査企業：42／110社（回収率38.1％）  
（製造業）9／20，（建設業）7／20，（サービス業）8／20，（卸売業）7／20，（小売業）11／30
- 調査項目：売上・採算・業況等についての状況（現状・見通し）および業界として当面する問題

## 【調査結果の概要】

全業種合計の業況D Iは▲31.0ポイント（前期比8.1↓）で、悪化傾向となった。製造業▲33.3ポイント（同3.1↑）は若干の改善傾向、サービス業▲25.5ポイント（同0.0→）、卸売業▲0.0ポイント（同0.0→）は横ばいとなったが、建設業▲28.6ポイント（同28.6↓）、小売業▲54.5ポイント（同18.8↓）では悪化傾向となった。業況D Iの来期見通しについては、製造業・建設業・卸売業・小売業で改善傾向、サービス業で横ばいとなり、全業種合計では改善傾向となった。

今期の売上D I・採算D Iについては、全業種合計でそれぞれ0.9ポイント↓、6.7ポイント↓の悪化傾向を示した。

### 製造業

業況	売上	採算
↑	↓	↑

市場の変化は常にあり、内製化を進めている／世界情勢や貿易戦争などの混乱の影響が業績に反映している／地元産の原材料の確保が事業者の高齢化で難しくなっている

### 建設業

業況	売上	採算
↓	↓	↓

物件当たりの受注額が大きい場合は、短期に業況が変わることは少ない。福利厚生など、人材に投資したい

### サービス業

業況	売上	採算
→	↓	↑

インバウンドの減少による影響が不透明／人手不足に困っている／原油価格の上昇によるコスト増、人件費増の影響が不安要因／インバウンドが下降気味／後継者不足の他、価格競争・店舗数過多など課題は多い

### 卸売業

業況	売上	採算
→	↑	↑

運賃上昇を売価に反映できていない他、輸入商品の価格交渉に苦心／海外で農産物の買付増が起きており、国内需要や価格を考慮した商談が進めづらい／消費増税の影響を注視

### 小売業

業況	売上	採算
↓	↓	↓

若い従業員がみつからない。働き方改革・人手不足で休日を増やし生産量が減少、売上も減／消費者ニーズを踏まえ、販売商品を見直した／消費増税による売上減などの悪影響を懸念する

※D I 値（好転・増加 — 悪化・減少）の傾向（前期比との比較）

↑ 改善傾向      → 横ばい      ↓ 悪化傾向

## 中小企業景況調査（平成31年4月～令和元年6月）の報告

### 【調査概要】

- ・調査対象：日田地区商工会管内 15 事業所／大分県 149 事業所
- ・調査方法：経営指導員によるヒアリング調査

### 【業種別内訳】

業 種		製造業	建設業	小売業	サービス業	合 計
事業所数	日田地区	3	3	3	6	15
	大分県内	29	24	38	58	149

### 【項目別景況判断】

#### ①今期の状況（対前年同期比）

地 区	項 目	売上高	採算(経常利益)	従業員数	資金繰り	業況
日田地区管内	景況判断					
	D I 値(※)	▲33.3%	▲28.6%	▲13.3%	▲35.7%	▲7.1%
大分県内	景況判断					
	D I 値	▲19.6%	▲26.5%	▲9.2%	▲18.3%	▲18.2%

#### ②来期の見通し（対前年同期比）

地 区	項 目	売上高	採算(経常利益)	従業員数	資金繰り	業況
日田地区管内	景況判断					
	D I 値	▲20.0%	▲21.4%	▲6.7%	▲28.6%	0%
大分県内	景況判断					
	D I 値	▲27.0%	▲29.5%	▲7.8%	▲26.3%	▲24.0%

※D I 値とは 良い（増加・好転）と答えた企業の割合から、悪い（減少・悪化）と答えた企業の割合を引いて計算した値を示す

#### ③今期直面している経営上の課題・問題点（回答が多い課題等を記載）

	課題・問題点（製造業・建設業）	課題・問題点（小売業・サービス業）
日田地区管内	熟練技術者の確保難	消費者・利用者ニーズの変化
	従業員の確保難	店舗施設の狭隘・老朽化
	製品ニーズの変化	(材料等) 仕入単価の上昇
大分県内	原材料価格の上昇	需要の停滞
	需要・民間需要の停滞	消費者・利用者ニーズの変化
	熟練技術者の確保難	材料等仕入単価の上昇